

BOOKS & TRENDS



# 生活合理化と家庭の近代

全国友の会による「カイゼン」と「婦人之友」

小関孝子 著 勁草書房 3000円+税/263ページ

## profile

おぜき・たかこ

社会デザイン研究所特別研究員。専門は社会デザイン学、生活社会史、メディア史。1971年東京都生まれ。津田塾大学国際関係学科卒業。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士課程後期修了。博士号(社会デザイン学)を取得。

# 02

丹念な掘り起こしが  
新鮮な気付きを与える

評者 スクウェアイブ代表取締役社長  
黒須豊

本書は、雑誌「婦人之友」の愛読者有志の会「全国友の会」の活動を戦前の創設から現在に至るまで、組織運営を含めて詳細に分析した最初の書である。著者は、会員らが当初から口にして「生活合理化」というフィルターを通して、各時代を丹念に掘り起こしている。読者に歴史ドキュメントを見せるかのごとく、婦人たちが時代毎に如何に合理化をリードしてきたのかを詳述する。翻って評者が思うところは、婦人たちの活動は日本の家庭のニーズを集約し、少なからず、住生活関連産業等の発展の方向

性にヒントを提供してきたのではないかということである。

事実、婦人たちのアイデアは雑誌に特集として頻繁にフィードバックされ、会員や一般読者に影響を与えただけでなく、各企業の担当者の目に触れたことも間違いない。

本書によれば、婦人たちの「合理化」は基本的に無駄な物は買わない志向性を追求している。だからこそ、真のニーズをあぶり出すうえで、洗練された情報を包含していたはずである。

ところで、昨今SNSの普及に呼応して、ビッグデータの活用が企業競争優位実現の手段の一つとして注目されている。ノイズの多いビッグデータ活用と家庭のニーズを効率的に集約していた婦人たちの活動とは、そのコントラストが興味深い。

企業にとって、ビッグデータ解析は期待大ではあるが、その対極にある活動を予め正確に認識することは有意義であろう。

また、長年にわたる婦人たちの効率的な組織運営の実態は、組織内における女性の活用が叫ばれる今こそ、認識すべき参考事例の一つと言える。

本書は、ビッグデータや女性の活用を促進するためにも、新鮮な気付きを与える可能性を秘めた書としてお薦めしたい。